

1) 研究テーマ

## 子どもの多様化と、この子が生きる学習

現在、学校現場では「主体的・対話的で深い学び」（いわゆるアクティブ・ラーニング）の実現に向けた授業改善が盛んに言われ、研修会がおこなわれています。しかし日々の授業実践ではどうでしょうか。「めあて」（学習問題）を早急につくり、ペア学習を取り入れて話し合い、その内容を整然と「まとめ」る（解決する）ような「めあて→まとめ授業」になってはいないでしょうか。これでは学習問題の解決になりません。

「主体的・対話的で深い学び」は、授業改善の視点として「主体的」「対話的」「深い」のそれぞれに見いだすことができますが、これらの三つが互いに結び付いて、授業がよりよいものになっていくということ、さらに、子どもの主体性や対話を通して、最終的には、子どもたち一人ひとりの個別・具体的な「学び」を目指すものであるということに気をつける必要があります。

「めあて→まとめ授業」に見られる、教師が作った早急な「めあて」では、子どもたち一人ひとりが「主体的」な学習の構えを持つことは望めません。また、多様な子どもたち一人ひとりの思いや考えを出し合い、聴き合うという授業ではなく、一部の子どもの発言が全体の意見とされたり、教師にとって都合のよい一部の子の発言しか取り上げられない授業では言われている「対話的」とは、かけ離れたものになってしまいます。仮に、どれだけ「主体的・対話的」であったとしても、「～ということがわかりました」「～についてもっと調べてみたいです」程度の「まとめ」ではなく、友だちの発想に出会って考えが揺さぶられたり、新たな考えが得られたり、密度の濃い「深い」学びがなければ、学んだ事柄は意識の背景へとしりぞき、やがて消去されてしまいます。子どもたち一人ひとりにとって質の高い授業とするには、これら「主体的」「対話的」「深い」の三つが互いに結びついたものでなければ、「深い学び」には決してならないのです。様々な立場に立って、安易に白黒をつけず「どうすればよいのか」ねばり強く問い続けていく。このような「学び」が、今ほど子どもたち一人ひとりに求められているときではないでしょうか。

私たちの研究会では、提案授業の詳細な記録（中心となると授業の逐語記録、座席表、カルテ、その他子どもの記録など）が資料として提示されます。これは授業における子どもの事実に基づいて提案された授業が、「この子」の個としての人間的な成長「学び」にとってどのような意味を持つのかを考えるためです。限られた時間で記録のすべてを読み取り、語り尽くすことは難しいかもしれませんが、有意義な研究会となるよう、主体的で積極的な参加をお願いいたします。

2) 期 日 2020年1月11日(土) 12日(日)

3) 会 場 京都 聖護院 御殿荘  
〒606-8324 京都府京都市左京区聖護院中町 15  
TEL075-771-4151

4) 日 程

【1月11日(土)】

授業者・提案者・司会者打合せ 12:00~12:30

受 付 12:30~13:00

全体会 13:00~13:30

開会挨拶, テーマについて

授業者, 提案者, 司会者紹介

分科会 1 日目 13:45~18:00

夕食・懇親会 19:00~21:00

【1月12日(日)】

朝 食 7:00~ 7:45

分科会 2 日目 9:00~10:40

講演会 10:50~11:50

閉会挨拶 11:50~12:00

※運営委員会 12:30~15:30

5) 分科会

	授業提案	司会	提案者
A	3年社会科「わたしたちの生活と工場 働く人々の仕事」 —子どもの社会参画を意識した単元構想— 和歌山大学附属小学校 中山 和幸先生	十河小学校 高野 雅信先生	佛教大学 小林 隆先生
B	5・6年学級経営の記録 浅田教育塾 永利 大次先生	浅田教育塾 所 達樹先生	浅田教育塾 浅田 芳正さん
C	6年理科「てこのはたらき」 蒲生北小学校 上杉 尚裕先生	湖南省立岩根小学校 川嶋 稔彦先生	寝屋川市立明和小学校 加藤 美香先生

6) 講演会

演題: 「多様な考えをもつ1人1人の子どもが育つために」

講師: 元関西初志の会研究部長 若林シゲミさん

## 7) 参加費

### 【大会参加費】

会員・誌友 2,000 円

一般 2,000 円

学生・院生 無料

### 【宿泊費・懇親会費】

宿泊費 18,000 円（大会参加費・懇親会参加費を含んでいます）

懇親会参加費 7,000 円（5,000 円補助しています。）

駐車場利用料 500 円（1 日）宿泊者は無料

## 8) 申し込み方法

※宿泊者締切 2019年11月22日（金）

ご都合がはっきりしない場合などを含め、期日が過ぎてもご一報ください。

### 【郵便 電話 メールで申し込む場合】

事務局 東田 晶明

〒669-1321 三田市けやき台 5-10-3

TEL079-565-4896 FAX079-565-4896

mail [masa2009@ezweb.ne.jp](mailto:masa2009@ezweb.ne.jp)

※事務局へ下記①～④をお知らせください。

①氏名 ②所属 ③連絡先（住所・電話番号）

④参加内訳（宿泊・懇親会参加）

⑤種別（会員・誌友・一般・学生院生）

### 【QRコードで申し込む場合】



必要事項を入力してください。

### 【ウェブで申し込む場合】

<https://form.os7.biz/f/ae9b3219/>

【FAX用申込用紙】079-565-4896（東田 晶明宛）

お名前	所属
連絡先	
住所 〒	電話番号
参加内訳（どちらかに○をつけてください）	
①宿泊・通い	
②懇親会 参加・不参加	
③会員・誌友・一般・学生院生	

## 2020年 講演会

### 演題

「多様な考えをもつ

一人ひとりの子どもが育つために」

元関西初志の会研究部長

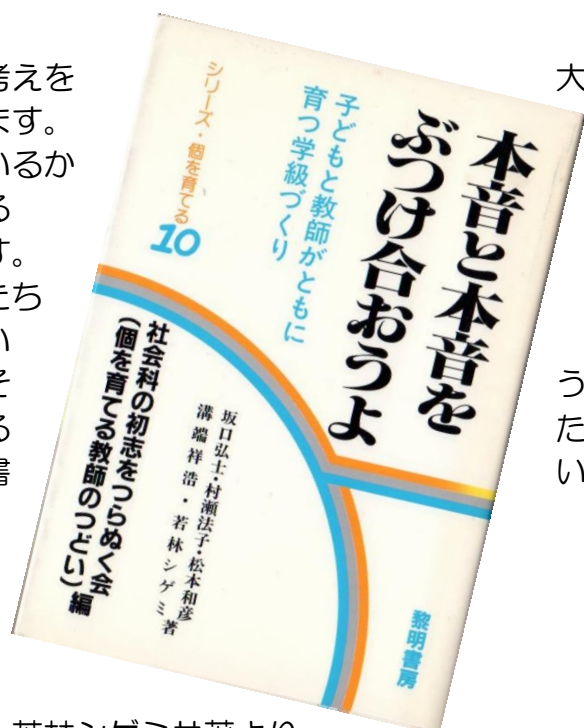
若林シゲミさん

一人の考えを大切にする学習から、他の人の考えを切にしようとする意識が育ってくると考えています。子どもたちがどう考えてくれたか、どう思っているか知りたくてしかたがなくなってきました。そうすると、知らないで学習することはできなくなります。どんなに忙しくてもノートを読みます。子どもたちに考えを書かせます。書かせれば、早く読みたいと思います。読むと様々な考えに出会います。そするとメモをしておきたくなります。メモをとるために時間がかかります。毎日、暇なく読んだり書いたりしています。

そうして、子どもたちとつくる学習が始まります。一人の子の考えをどうしても出させたいのですが、なかなか登場してくれません。

「本音と本音をぶつけ合おうよ」黎明書房 若林シゲミ共著より

“今の子どもをどう育てるのか” 現実の問題として、今の子どもに伝えたいことを語っていただきます。



大

うたい